

5 (1)令和6年度学校評価項目「自己評価表」全日制

自 己 評 価 表

愛媛県立今治西高等学校全日制
学校番号(14)

No. 1

教育方針	徳・知・体の調和のとれた健全な心身の発達を目指し、個性豊かな人間の育成を期する。	重点目標	1 温かい人間性と豊かな社会性を身に付けさせる。 2 高い知性と豊かな創造性を養う。 3 強い意志とたくましい体力を培う。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
温かい人間性と豊かな社会性	基本的な生活習慣の確立	規則正しい生活をするので体調管理に努めさせ、年間通して欠席0日の生徒70%以上を目指します。 A : 70%以上 B : 69~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 40%未満	D	3学年とも年度始めは良好な出席状況であったが、日がたつにつれ、学習と部活動の両立に苦しんだり、人間関係で悩みを抱えたり、進路で漠然とした不安を抱えたりするなど、多様な精神的ストレスを抱え苦しむ生徒が増えていった。心身のバランス調整のために欠席する生徒が多い印象である。	ホームルーム担任、教育相談課と連携し、各自が抱える悩みや困りごとをしっかりと聞き取って寄り添い、学校や教室が安心して過ごせる空間にする。 家庭との連絡を密にして保護者としっかりと連携をとり、生徒の健全な育成に努める。
		自他の生命を尊重する態度を身に付けさせるとともに、交通安全意識の高揚を図り、交通事故ゼロを目指します。	B	交通安全教室や集会、終業式時の講話などあらゆる機会に交通安全に関する注意喚起を促した。生徒一人一人が交通安全を意識し、交通事故報告が数件であった。	交通安全委員会をさらに活性化させ、各クラスの交通安全委員から生徒たちに呼びかける活動を充実させる。引き続き交通事故ゼロを目指す。
	安心・安全な学習環境の確保と心身の健康	「心の悩み」解消をサポートし、充実感の持てる学校を目指します。	C	諸検査やアンケート、及びその追跡を行い、悩み解消のサポートに取り組んだ。相談室には放課後、担当者が在室し、毎週金曜日にはスクールライフアドバイザーが来校し、相談に応じた。	諸検査や学校生活アンケートを活用や、SLAやSSWとの連携を図り、悩みの早期発見に努める。
		保護者・地域に開かれた学校として、PTA総会出席率40%、保護者懇談会出席率100%を目指します。 PTA総会 A : 40%以上 B : 39~30% C : 29~20% D : 19~10% E : 10%未満 保護者懇談会 A : 100% B : 99~80% C : 79~60% D : 59~40% E : 40%未満	B	PTA総会出席率昨年より5%減り、30%程度であった。同日予定していた学校行事(陸上競技大会)が中止になり、保護者参観はなくなったが、授業参観の参加者も昨年に比べ比較的少なかった。総会後のホームルーム担任との面談も例年あり、クラスによっては保護者面談の数が多学年もあった。 学期末の保護者懇談会については、どの学年においても90%以上の出席であった。	PTA総会当日に、授業参観・学校行事(陸上競技大会)・担任との面談を行い、出席率40%以上を目指す。 保護者懇談会については、出席率90%以上を目指す。
	安心して活動できる学校を維持するための防災教育や環境教育を充実させます。	C	シェイクアウト訓練を1回、防災避難訓練を2回実施した。2回目の避難訓練は降雨に見舞われ急遽、避難場所の変更等あったが、真剣に取り組めており、良好な訓練であった。 危機管理マニュアルを見直した。 心肺蘇生法実技講習会(エビベン含む)を実施した。 クリーンえひめの一環として、1年生が美化活動を行った。	水害や地震等に備え、防災倉庫の物品管理や学校防災体制の見直し等を引き続き行う。 美化委員を通じて防災・環境に関する啓発を考える。	

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
高い知性と豊かな創造性	学ぶ意欲を高揚させる 教科指導の充実 (授業改善への取組み)	ICTの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを積極的に取り入れ、授業満足度100%を目指します。(「授業に関する生徒評価」4.8ポイント以上) A : 4.8p.以上 B : 4.7~4.6p. C : 4.5~4.4p. D : 4.3~4.2p. E : 4.2p.未満	A	授業に関する生徒評価は、昨年より0.1評価が下がったが、全体平均4.8ポイントと目標を達成できている。また、各教科・科目でICT機器を利用した授業が年間を通して積極的に実施できている。また、DXハイスクール事業の充実に努めている。学校全体で、指導と評価の一体化に向けての研究及び実践を行っている。	ICT機器の活用については、「活用＝教育効果の向上」ではない面もある。教科・科目の特性を考慮した効果的な活用方法の研究と実践に努める。DXハイスクール事業をより充実させていき、情報活用能力の育成、DX人材の育成に取り組んでいきたい。
	自ら学び自ら考える力を育てる 家庭学習の充実	確かな学力の定着を図るために、課題の与え方を工夫し、家庭学習1日平均4時間以上 (R5年度平均4.2時間【1年生3.8時間、2年生3.9時間、3年生4.8時間】)を目指します。	B	家庭学習時間は、3年生が通年4.6時間であった。昨年より15分程度学習時間が減少しているのは問題である。1・2年生の家庭学習1日平均は1年生は3.4時間、2年生は3.6時間であり、早急な対策が必要である。	低学年での継続的な学習習慣の確立と学年が上がることに、主体的に学ぶ習慣を身に付けられるように、学校全体の問題として取り組んでいきたい。
	読書活動の推進と 思索する態度の育成	全学年による朝の読書、年2回以上の図書委員会主催の読書会を実施します。 ビブリオバトルやブックトークを推進するとともに、「螢雪ライブラリー」を活用して読書指導の充実を図るとことで、より高いレベルで読書し思索する態度を育てます。	B	生徒の購入希望図書や「螢雪ライブラリー」Cに選定された図書などを購入し、図書館の魅力づくりに取り組んでいる。今年度は、図書館日より「ほんばこ」に先生のおすすめ図書紹介コーナーを設けたり、Web配信を行ったりして、読書に親しむ態度の育成にも努めた。校内読書会は、生徒主体で実施することができた。	図書館日より「ほんばこ」のWeb配信を継続することで、読書の魅力を生徒に周知し、図書館利用者数や貸出冊数の増加を目指す。図書委員会の活動として、教科の内容に連動した読書紹介コーナーを設けるなどの取組を一層充実させる。R7年度上半期は「UPOPOY LIBRARY」を利用し、アイヌ文化に触れる取組を行う。
強い意志とたくましい体力	特別活動の充実と連帯感の醸成	学校行事を精選し特別活動をより充実したものにして、たくましい心と体を育てます。 ボランティア活動への参加を促し、「共生」の心を育てます。	A	本年度は3年に一回の文化祭が開催され、部活動、有志、クラスと多くの生徒が活躍し、準備も含めて充実した活動ができた。愛媛マラソンのボランティアには昨年より多い330名の生徒が参加し、共生の心が大切に育まれた。	陸上競技大会が2年連続天候不順のため中止になっていたが、来年度は予備日を設定し、生徒の活躍の場を確保する。ボランティアについては、愛媛マラソンだけではなく、他の活動にも積極的に参加を促していく。
	部活動の充実と 心身の健やかな成長	レベルの高い学習と部活動の両立を目指し、生き生きとした学校生活を送れる環境づくりに努めます。(部活動加入率100%) A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未満	A	加入率は90%を超えた。運動部文化部ともに複数の部活動が全国大会に出場した。個々のレベルに応じて学習とのバランスを取りながら充実した活動が行えた。	部活動の統廃合が大幅に実施されるが、残された部活動の活性化を進め、生徒の部活動の満足度が低下しないようにしていく。
		「部活動の在り方に関する方針」に基づいて、適切な活動を行います。	A	各部が年間計画・月間計画を立て、計画的に効果的な活動ができた。	引き続き学習とのバランスを重視し、限られた時間・環境の中で、計画的に活動し、成果を上げていく。
	人権・同和教育の充実と 豊かな心の育成	人権尊重の意識を高め、差別解消への実践力を高めます。	A	生徒・教職員とも、HR活動や講演会、研修会を計画的に実施できた。また、西高人権デー等の新たな学びの機会を増やすことで、人権尊重の意識が高まった生徒の発言や行動が増えた。	HR活動や講演会等の研修の機会だけでなく、西高人権デーや各教科・科目の学習活動を通じて、人権尊重の意識を高める学びを充実させる。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	
夢の実現	進学指導の充実と進路意識の醸成	生徒全員の自己実現・進路実現を目指します。 (国公立大学及び難関私立大学進学率70%以上) A : 70%以上 B : 69~65% C : 64~60% D : 59~55% E : 55%未満 (国公立難関大学+医合格30名以上) A : 30人以上 B : 29~25人 C : 24~20人 D : 19~15人 E : 15人未満	C	国公立大学総合型選抜・学校推薦型選抜では、昨年度は9/19(合格者数/受験者数)、20/44の結果であった。本年度は、総合型選抜が8/22、学校推薦型が26/59の結果であり、合格率は昨年度よりやや低いものの、合格人数は合計34人とここ5年間で最多となっている。 一般選抜は、現役87名、過年度卒8名、計95名が合格した。総合型・学校推薦型・一般選抜前期において、難関大学と医学部医学科は現役21名、過年度卒4名の合わせて25名が合格した。	蜚雪大学や出張講義、難関大学合同合宿等の進路行事を通して高い目標を持って学ぶ意義を伝えていく。また、早い時期から学年団と協力し、同じ大学を目指して切磋琢磨できるグループの育成を図る。次年度は新課程2年目となるため、生徒が安心して受験に臨めるように更なる情報収集に努め、担任会等を通して情報を学年団と共有し、生徒との面談や教科指導に活用してもらう。保護者説明会等でも情報発信に努める。	
		高大連携を深め、視野を広げ、学びへのモチベーションを高めます。	B	2年生ZESTは、大学と連携して課題研究に取り組み、大学の先生から直接指導・助言を得られた(年間4回)。活動に「学びがあった」「興味・関心」が持てた項目の正答回答平均値はそれぞれ4.5ポイント、4.2ポイントであった。自己評価平均値は3.9ポイントであった。	各学年のZESTでの課題研究、進路探究が相互に関連し合い、興味・関心分野をより深められるような体制作り、また、各種大学オンライン講義とZESTでの探究活動が有機的に結びつくような体制づくりを図る。	
		「西高に入学してよかった」と思う生徒の育成を目指します。(「学校評価(生徒評価)」4.5ポイント以上) A : 4.5p.以上 B : 4.4~4.0p. C : 3.9~3.5p. D : 3.4~3.0p. E : 3.0p.未満	B	生徒評価の平均は昨年並みだが、2年生の評価が低い。学習や進路選択が本格化する時期であるため、個に応じた学びや進路相談等を研究したい。「生徒の実態に応じた進路相談が行われている」の評価が学年が上がるにつれ高くなっており、担任の面談や教科の個別指導等が適切になされたと考える。	キャリア・パスポートを活用し、生徒に自己の強みや志望分野を振り返る機会を適切に設ける。新課程入試に対応できるように、教職員への情報提供に努め、指導体制の充実を図る。1年生と保護者の「進路室の利用方法、進路情報の収集方法の周知」に関する評価が低いため、HR活動や保護者対象の進路説明会等を活用し、情報提供をする。	
安全管理	開かれた学校づくり	ホームページに毎日の生徒の活動や連絡事項を掲載するなどして情報発信に努めます。	B	学校からの必要な情報は的確に掲載することができた。生徒の日々の活動に関しては、各部署で可能な範囲で掲載の協力をお願いしたが、掲載できなかったものもある。	内容や更新頻度については随時適正化を図っていきたい。また、生徒の日々の活動については、引き続き更新への協力をお願いしていきたい。	
		安全管理	情報の適切な保管・管理に努め、事務処理の適正化を徹底します。	B	学習系、校務系ともに、課・教科に応じて分類し、適切に情報を管理している。年3回のセキュリティ研修会を通して、情報管理への意識向上に努めている。	より効率的で、負担のない管理方法になるよう改善を図る。EILIS導入に伴う問題に対応できるように、セキュリティ研修会を通じて、教職員の意識向上に努める。
			施設・設備の安全点検、改修を徹底し、事故の防止に努めます。	B	安全点検を4月・8月・1月に実施。保健環境課員や美化委員会による校内点検を随時行った。補修箇所や職員椅子等については、事務課と協力して可能な範囲で迅速に対応した。	老朽化に伴う補修箇所がいろいろあるが、引き続き事務課と協力して随時対応していく。
業務改善	働き方改革の推進	業務の効率化・平準化を図り、勤務時間の適正化によってワーク・ライフ・バランスの取組を推進します。	C	諸会議については、概ね勤務時間内に終えることができた。その一方、時間外勤務の多い教職員が複数おり、更なる業務の精選及び平準化が必要である。	教職員の分掌配置の適正化を一層図りたい。また、年休やテレワークの取得を促し、ワーク・ライフ・バランスの充実を呼び掛ける。	
		職場環境の整備	B	空気清浄機の導入により、感染症罹患防止に効果を発揮している。	職場環境改善につながる備品・機器の購入・修繕等について、教職員の声を吸上げ、より働きやすい職場環境の整備に努める。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。